

第51回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	上島ゼミ	チーム名	上島珈琲マメ
タイトル	女性活躍に必要な条件とは何か		
テーマ群	c) 公共経済		
メンバー	石原杏純 小野桐生 加藤瞳 小林千紗 佐藤栞 鈴木海由 高田大地 田中愛子 南森真奈 長谷川綾香 横山嵯弥 吉田瑠香		
研究計画内容	<p>「研究背景」</p> <p>就職活動が始まり、自分たちの将来を考えるようになった。結婚して子供をもつ未来を想像するとき、どうすれば職業生活と家庭生活を両立できるのか不安になる。</p> <p>今日では、「男性は仕事、女性は家事・育児」という分業はスタンダードでも、理想の生き方でもない。男女問わず、家庭と仕事の両立を理想とする人が多数である。しかし現実には、女性は家事・育児に追われて管理職の割合は低く、両立志向に対応できていない。</p> <p>女性の社会進出を後押しする法律が存在するが、それは有効に機能しているのか。女性が活躍する企業ではどんな取り組みをしているか。管理職の女性は何を働きがいにしているのか。この研究を通して、女性活躍に必要な条件を知りたい。</p> <p>「研究内容」</p> <p>雇用システムには、大きく分けてジョブ型とメンバーシップ型の2種類ある。ジョブ型は、職務に対して人が雇用され、決められた仕事を行う能力が重視される。一方、日本で採用されているメンバーシップ型では、人に対して仕事が割り振られて、働きぶりを評価されて異動し昇進する。</p> <p>現在の日本では、労働力人口が減少し、女性の社会進出が求められている。しかし、メンバーシップ型の特徴である転勤や長時間労働が、家庭責任を負う女性には職場で活躍しにくいという問題を生じる。そのため、女性活躍の推進や男女間の差別を取り払うという観点から、男女雇用機会均等法や女性活躍法などさまざまな法律が制定されている。</p> <p>男女間の賃金格差や、女性の管理職割合、雇用形態を諸外国と比較しながら、我が国の女性活躍の現状を把握する。同時に、女性が活躍する会社へインタビュー調査を行い、女性活躍に必要な条件を明らかにする。</p> <p>「期待される効果」</p> <p>今日でも、「男は仕事、女は家庭」という性別役割分業の意識が完全には払拭されていない。男女がともに社会で活躍できる環境を実現するためには、企業の取り組みと働く人自身の意識が重要になる。</p> <p>職場で女性が活躍するために何が必要であるかを学ぶことにより、就職活動に役立つだけでなく、その後の人生を充実したものにすることができる。</p>		